Working Voice
ワーキング ヴォイス
NO. 34　2011年　12月15日

男性の子育て参加

夫と妻が協力して育児・家事を楽しむ生き方、働き方が注目されています。

働く女性の育児休業取得率は、約9割となっていますが、育児休業を取らずに仕事を辞めてしまう女性も少なくありません。離職の大きな理由は「仕事と育児の両立が難しい」ということです。子育てに父親参加は不可欠という考えが浸透しつつある昨今、子育てに参加してほしいと願う妻も多くなっていますが、踏み出せない夫もたくさんいます。仕事と家庭の間で、悩んでいるのはそうした子育て世代のお父さんたちかもしれません。

国では、女性の育児支援だけでなく、男性の育児参加も積極的にサポートする職場環境づくりを呼びかけています。しかしながら、厚生労働省が発表した「平成22年度雇用均等基本調査結果概要」では、育児休業取得率は、女性労働者が83.7%、男性労働者が1.38%となっています。先進諸国に比べて日本の男性の育児時間は最低水準となっています。子育てや、介護をしながら働き続けられるよう、誰もが仕事と生活の調和がとれた働き方ができる社会の実現に向けて取り組まれることが必要です。

子育てを楽しみ、自分自身も成長する男性のことが「イクメン」「カジメン」と呼ばれ注目を集めていますが、男性の子育て事情の実態はどうなっているのでしょうか。今月号では、ワーク・ライフ・バランスと子育てに参加をしたお父さんたちの声などをご紹介いたします。

ワーク・ライフ・バランス

・・・子育て・介護・趣味・スキルアップ・・・

ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業も増えてきましたが、「家の事情で会社を休んだり、早く帰るなんて・・・」という価値観を持っている人もいます。子育てに限らず親の介護のために、時間の必要な人もいます。ワーク・ライフ・バランスを実現することは、どの年代の人にとっても大切だと言われています。そこで、県内のワーク・ライフ・バランスの推進に向けて活動されている特定非営利活動法人ワークライフ・コラボ代表の堀田真奈さんに、お話を伺いました。

Q：　今現在の働く環境についてどのように感じていますか？

20年くらい前までは、就職すれば安泰、あとは会社に依存・・・（入社すればあとは給料アップするなど昇進も安泰）でよかったけれど、現在はそうではない現実を働く側も企業側も理解し始めています。働く側は、自らスキルアップするなど雇用され得る能力を高める場が必要になっています。

また、仕事以外にしなければいけない事（子育てや、突然やってくる親の介護、自己啓発）などを持っている人はどんどん増えています。企業側は個人の置かれた状況に応じて多様で柔軟な働き方を考る時期にきていると思います。

Q：　県内のワーク・ライフ・バランスの現状はどうなのでしょうか？

ワーク・ライフ・バランスは、働く女性やワーキングマザーの支援策と誤解されがちですがそれは入り口のひとつでしかありません。仕事に翻弄し、家族やパートナーと時間がとれない、自分の時間がないと悩む男性も多く、性別、年令問わず大切な問題です。「ワーク・ライフ・バランス」という言葉についても、まだまだ周知されていないのが現状です。3 年前、「えひめ子育て応援企業」の認証支援サポーターとして企業を回っていたときは、賛否両論あり、風当たりの強いこともありました。しかし、今では随分企業側の意識も変わってきています。現在はその応援企業が 300 社近くにのぼります。当時は「種まき」だったと思いますが、企業の両立支援の意識の芽生えにつながってきたと感じています。

しかしながら、県内では経済状態の悪化もあって、具体的にワーク・ライフ・バランスに取り組む事の優先順位は後回しが現状です。勤務先の経費削減や働き手不足のために社員一人にかかる負担が増え、働いている人の仕事と生活の調和の意識がついてきていません。子育てだけではなく、メンタルの面や介護の面など、従業員の生活への配慮のためのワーク・ライフ・バランスの施策を企業も考えるようになってきていますが、具体的にどうしたら？の段階で模索されている企業が多いようです。うまくいっている企業は働く人の声を聞き、反映し、コミュニケーションがとれていることから始まっているようです。

Q：　年令別、男女別のワーク・ライフ・バランスの意識の違いはありますか？

県のモニター調査「くらしに対する満足度」で「満足」と答えた人の割合は 70 歳代以上で最も高く（66.8%）、60 歳代（58.9%）、50 歳代（52.8%）、40 歳代（57.1%）、30 歳代（59.9%）となっています。60 歳以上の人は、セカンドステージを自分の時間と考え、今後の暮らし方として仕事以外で心の豊かさや、ゆとりのある生活をする事に重きをおきたいとの意識が高いようです。既婚・未婚でもやや違いがあります。平成 23 年 8 月愛媛県の「仕事と生活の調和の実現について」のモニターアンケートでは 30~40 代が「仕事と生活の調和」に満足していないデータがあります。30 代、40 代の多くの方は子育て真っ只中で、かつ仕事も責任のある年代で、「時間」が大きな問題になっています。

Q：「仕事と生活の調和が実現された社会」に近づくためには、どの様な事が必要だと思いますか？

わたしたちが目指すワーク・ライフ・バランスとは生活と仕事の配分をどうするか、ということではありません。天秤にかけることでもありません。「仕事も生活も楽しもう」ということです。

コミュニケーションをとり情報を共有し、自分も組織もオープンな関係にする事で健康で豊かな生活の時間が確保できる社会。家族、友人などとの充実した時間、自己啓発や地域活動への参加の時間などが持て、仕事にもやりがいが持てる。これらがワーク・ライフ・バランスにつながるのではないでしょうか。そして「わかってもらえない」ではなく「わかってもらう」事が大事です。不安定だからこそ、知恵と工夫、有効な時間活用で生活と仕事の安定を考えたいものです。

お知らせ　働くパパ・ママ応援セミナー　～保育園ってどんなところ？～

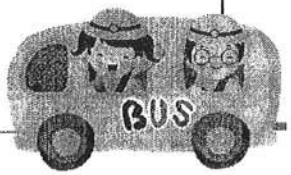
そろそろ社会復帰・職場復帰を考えているお父さん、お母さん！

日時：　平成 24 年 1 月 15 日（日）13:00～16:00　**場所：**　コムズ松山市男女共同参画推進センター

受講料：お一人 500 円（夫婦割引：お二人で 800 円）

お問い合わせ・申し込み：NPO 法人ワークライフ・コラボ　℡090-5273-1510

http://www.worcolla.com



☆育児休業・育児休暇を取られた「イクメン」「カジメン」な、お父さんたちの声をご紹介します☆

育児休業・・・法律に基づいて取得する事のできる休業制度

育児休暇・・・休暇中に育児する、育児のために休暇を取得する事

子どもと時間を持つことの大切さを再確認　　公務員　20代　1年間育児休業取得

Q:　育児休業の取得を決断した想いやきっかけは何ですか？

妻が出産後1年くらいから働きたいが、子供をすぐに保育園に入れるのはかわいそうだとの思いがあったため、私が1年間育児休業を取得することにしました。

Q:　育児休業を取得するのにあたって、家族（特に奥様）にどの様な相談をしましたか？

妻とは出産後3月までは妻が育児休業し、私がそれから1年間取得するということを相談して決めました。

Q:　育児休業を取得するにあたっての職場での理解をどの様に得られましたか？

11月の異動希望等課長面接時に来年度の頭から育児休業を取得したいと相談したところ、特に問題なく取得できるよう手続きをしてもらえました。

Q:　育児休業取得中の仕事に関する行動やスムーズな仕事復帰の為にされた事はありますか？

取得期間が1年間と長かったため、育児休業中はできるだけ仕事のことは考えず子供の成長を楽しみました。最後の1ヶ月は子供が寝た後、仕事関係の本で勉強して思い出しながら復帰できるよう気持ちを切り替えたところ、特に問題はなかったです。

Q:　育児休業中の日々に感じた事はどの様な事ですか？また、その経験が復帰後の仕事や生活に与えた影響について教えて下さい。

1年間一緒に過ごしたことによって子供に対する愛着がより大きくなったのかなと思います。生まれた後約9ヶ月は妻が育児休業中でその時はあまり意識していなかったですが、復帰後はよりかわいく思えるようになりました。その結果、できるだけ残業しないように早く帰りたいとの意識が大きくなったと思います。

Q:　今後、他の皆さんがどの様にすれば育児休業が取りやすくなると思いますか？

特に1人目の子供が生まれた職員に上司が積極的に短期間でも育児休業を取得するよう勧めると良いと思います。奥さんが主婦でも取得できるようになっているのですが、専業主婦だとなかなか取得しようという気持ちにはならないと思うので。私も妻が専業主婦であればたとえ短期間でも取得していないと思います。

Q：　育児休業について自由にご意見をお願いします。

男性は家族を養うため働き続けなければいけないとの思いが強いと思います。しかし、休業補償等ある場合もあるので、家族の理解を得られれば、30年以上ずっと働き続けるだけでなく数ヶ月でも子供との時間を持つこともいいことだと思います。

たぶん無理だろう・・と自己解決せずに　　会社員　40代　2週間育児休暇取得(有給休暇利用)

Q:　育児休暇の取得を決断した想いやきっかけは何ですか？

核家族で第二子出産でもあり、下の子の世話に専念したいとの妻の願いで有給休暇を取ることにしました。

Q:　育児休暇を取得するのにあたって、家族（特に奥様）にどの様な相談をしましたか？

お互いの両親に頼らず子どもたちを育てたい思いがあり、長期は取れないので何をしたらいいのか確認しました。妻の出産にあわせて、有給休暇を取ることを決めました。

Q:　育児休暇を取得するにあたっての職場での理解をどの様に得られましたか？

「上の子の世話がある」と上司に相談すると、2週間の有給休暇をすすめられました。

Q:　育児休暇取得中の仕事に関する行動やスムーズな仕事復帰の為にされた事はありますか？

会社と電話一本で繋がるので普段の休日と変わりません。

Q:　育児休暇中の日々に感じた事はどの様な事ですか？また、その経験が復帰後の仕事や生活に与えた影響について教えて下さい。

特別な事ではなく、家事育児は日常生活の中にある毎日の繰り返しの延長で生活の一部であり、その休暇に対する特別意識はありません。家族がスムーズに生活できることをやっただけです。上の子のこころの安定が得られたような気がします。

Q:　今後、他の皆さんがどの様にすれば育児休業や休暇が取りやすくなると思いますか？

必要に応じて家族や職場に相談するといいと思います。

Q：　育児休業や休暇について自由にご意見をお願いします。

取る必要がある時は、自己解決（たぶん無理だろう・・・）せずに、育児休業、有給休暇なども特別な意識を持たず、取れるようになればいいと思います。

編集後記　男性の働き方と家事・育児への参加の状況は、各家庭で違います。子どもの送り迎えや家事などを役割分担する家庭、精神面のサポートが欲しい、週末子どもとめいっぱい遊んでくれればいいと思っているなどその家庭にあった時間の使い方が大事なのですね。（S山・Y山）

愛媛県委託事業：（平成23年度　労働者の声発信事業）
発　　行：社団法人　愛媛県労働者福祉協議会
〒790-0066　松山市宮田町１２５番地　愛媛県労福協会館　３階
TEL 089-946-2296　　FAX 089-947-5616
Email　e-roufuku@leo.e-catv.ne.jp　　HP　http://ehime.rofuku.net/